

Oct. 2010

緊急・復興支援 2010年度 報告書

ご支援くださった皆さまへ、プロジェクトの成果についてご報告いたします。



仮設のテント学校で遊ぶ女の子(ハイチ)

ブラジル「洪水」
セネガル・ブルキナファソ「西アフリカ洪水」
フィリピン・ベトナム「東南アジア台風」
インドネシア「スマトラ島沖地震」
ハイチ「大地震」
ニジェール「食糧危機」
グアテマラ「熱帯暴風雨アガサ」





緊急・復興支援プロジェクト

(2009年7月～2010年6月)

2010年度寄付総額：91,231,102円 総件数8,108件

プロジェクト	寄付件数	寄付総額内訳	現地支出額 ^{※1}	次期繰越額 ^{※2}	掲載ページ
① ブラジル洪水	539	5,460,938円(57,325.02米ドル)	151,718米ドル	—	P.2
② 西アフリカ洪水	783	ブルキナファソ 3,207,589円(35,078.12米ドル) セネガル 1,718,794円(19,150.27米ドル)	626,963米ドル 108,000米ドル	123,392.26米ドル	P.3
③ 東南アジア台風	620	フィリピン 2,972,793円(33,210.84米ドル) ベトナム 1,960,517円(21,795.69米ドル)	381,264米ドル 276,482米ドル	16,703.85米ドル	P.4
④ インドネシア・スマトラ島沖地震	454	3,763,647円(41,345.38米ドル)	279,769米ドル	203,892.80米ドル	P.5
⑤ ハイチ大地震	5,098	47,070,202円(523,022.35米ドル)	9,414,761米ドル	3,313,545.83米ドル	P.6-7
⑥ ニジェール食糧危機	499	4,456,241円(49,685.69米ドル)	9,790米ドル	495,711.46米ドル	P.8
⑦ グアテマラ熱帯暴風雨アガサ	115	2,631,399円(29,399.02米ドル)	127,455米ドル	11,825.20米ドル	P.8
国内管理費	—	17,988,982円	—	—	—
合計	8,108	91,231,102円	—	—	—

※1 現地支払額は、当社後援からうつ等で現地非営利組織に直接支給済額にノ過当としてプロジェクトへ戻らざります。
 ※2 次期繰越額は2011年度も継続して実施される同プロジェクトに充当されます。

Brazil

| ブラジル | 洪水

実施期間：2009年5月～2009年10月

実施地域 北部マラニャン州コド活動地域、イタキバカンガ活動地域、シダデ・オリンピカ活動地域

対象 約7,900人

背景

2009年4月から3週間に及ぶ豪雨により洪水が発生。死者64人、被災者約50万人、学校が避難所として使用されたことからも、約40万人の子どもが学校へ通えなくなりました。プランは迅速な緊急支援活動と、防災に力点を置いた復興支援に取り組みました。

主な活動

- 食糧・物資の支給
 - ・食糧パッケージ1,000セット
 - ・衛生キット600セット
 - ・蚊帳やマットレス200セット
 - ・調理器具・ガスコンロ各200セット
 - ・ガスコンロ200セット
 - ・浄水器400セット
 - ・学用品800セット

- 感染症予防、有毒動物などについての保健衛生指導
- 心的外傷（トラウマ）ケアのためのレクリエーション
- 子どもの保護に関する啓発
- 防災教育、コミュニティの連帯強化ワークショップ

地域の再建を担うのはコミュニティの大、若者そして子どもたちです。被災したコミュニティで「正しい衛生習慣」「環境保全」「緊急時ににおける心的ケア」「危機管理」「リーダーシップ」「災害時の意思決定プロセス」など多様なテーマのワークショップを実施し、地域住民の能力強化をはかりました。彼らは主体的に復興活動に取り組み、災害への備えを進めています。



避難所で実施されたワークショップ

西アフリカ 2カ国 | 洪水

実施期間: 2009年9月～2010年9月

実施地域 ブルキナファソ(首都ワガドゥグ、中部ナメンテンガ活動地域、中部サンマテンガ活動地域)

セネガル(西部ダカールアーバン活動地域)

対象 ブルキナファソ約2万5,000人 セネガル約3万人

背景

2009年9月、西アフリカ一帯で大規模な洪水が発生し、約60万人が被災、160人近くが死亡しました。プランの活動国では、ブルキナファソ、セネガル、ニジェール、ギニア、ベナンが被災。ブルキナファソの首都ワガドゥグでは12時間のうちに国の年間降雨量の4分の1に相当する263ミリの雨が降りました。また、セネガルにおいては首都ダカールの貧困層が住む地域を洪水が直撃しました。プランは特に被害が甚大なブルキナファソとセネガルで緊急・復興支援を実施しました。



ブルキナファソ



セネガル



食糧の支給(ブルキナファソ)

主な活動

【ブルキナファソ】

- 避難所、給水タンクの設置
- 救援物資の支給
 - ・パン4,000斤
 - ・いわしの缶詰2,000缶
 - ・穀類10.5トン・毛布100枚



給水タンク(ブルキナファソ)

【セネガル】

- 家計支援(4,188世帯)
- 学用品支給(5,743人)
- 教室修繕(5教室)、教材・学校備品の整備(3校)
- 学校トイレ修繕(6基)

被害が最も大きかった地域はプランが長年活動してきた地域でした。現地スタッフはコミュニティとの信頼関係があり、また家族のニーズを把握していたため、緊急支援活動を円滑に進めることができました。今後も長期的な復興や開発を視野に入れた災害に負けないコミュニティづくりを進めていきます。



家計支援を受ける被災者への説明会(セネガル)



学用品を手にする被災家族(セネガル)

ブルキナファソ
被災者の声

マリアムさん

(避難所となったワラルギ・イスラ
学校で生活)

「学校に移動簡易トイレを設置してくださりありがとうございます。これまでたった一つのトイレを皆で使っていました。私たちのストレスを想像してみてください。子どもたちは我慢できず、そこここで用を足していました。この3基の移動簡易トイレはまさに私たちの救いです。あたたかいご支援に感謝します」

東南アジア2カ国

台風「ケツツァーナ」

実施期間：2009年10月～2010年7月

実施地域 フィリピン（北部ルソン島リサール州6自治区）ベトナム（中部クアンガイ活動地域、中部コントゥム活動地域）

対象 フィリピン：2万人 ベトナム：5万1,570人

背景

2009年9月、台風16号「ケツツァーナ」が東南アジアを襲い、大規模な洪水被害をもたらしました。フィリピンでは、マニラとその周辺地域に例年の1ヵ月以上に相当する雨を24時間で降らせ、リサール州だけで約50万人が被災しました。また、ベトナムではクアンガイとコントゥム活動地域の被害が甚大で、浸水・倒壊した家屋は約17万戸、浸水・倒壊した教室は約500教室に及びました。



ベトナム



フィリピン

主な活動

【フィリピン】

- 食糧(3万179セット)、衣料(7,698枚)、医薬品(100セット)の支給
- 净水剤(6,072個)と衛生キット(2万2,212個)の支給
- トロウマケアのためのレクリエーション(22コミュニティ)
- 仮設学校の設置(60校)、教科書支給(15校)、学校備品の支給(22校)



浄水剤の説明を受ける家族(フィリピン)

被災した子どもが学校に早く戻れるよう、仮設学校の設置や水没した学校の清掃作業を行いました。学校で食糧や衛生キットを配布することで、子どもの健康状態を改善させました。親は子どもを安心して通学させ、また家やコミュニティの再建活動に専念できました。48コミュニティで災害危機管理と気候変動に関するトレーニングが実施され、将来起こりうる災害への備えを強化しました。



救援物資の仕分けを手伝う高校生(フィリピン)

【ベトナム】

- 米、麺、塩、ビーナツ、魚醤などの食糧支給(5万1,570人の1～2ヵ月分)
- 仮設住居の設置
- 蚊帳の支給(286戸)
- 学校修繕・建設、教科書・学用品の支給
- 農業指導、種の支給、雇用機会の提供などの生計支援

ベトナム政府は被災者に米を配給していましたが、それだけでは量や栄養面で不足していたため、プランはバランスの良い食物を供給して、不足を補いました。また損壊した家屋や学校の再建においては「被災前より、もっと良いものにしよう!」とのスローガンのもと、地域住民は災害に強い建築技術のトレーニングを受け、子ども

も大人も安心して過ごせる家屋や学校の再建に取り組みました。



食糧を受け取る被災者(ベトナム)



家屋の再建支援を受けた家族(ベトナム)

**フィリピン
被災者の声** ラッファさん
(サンバロック小学校
6年生)

「遠いところまで私たちを助けにきてくれてありがとうございます。学用品と衛生キットは大変役立っています」

ソレダッド テジャダさん
(小学校教師)

「限られた資源しかなく、損壊した校舎をどうしようかと途方に暮れています。プランの支援によって、新校舎ができ、大変嬉しく思っています。子どもたちは勉強に一生懸命取り組んでいます」

インドネシア |スマトラ島沖地震

実施期間: 2009年10月~2010年8月

実施地域 スマトラ島中部 西スマトラ州パダン・パリアマン県パリアマン・ウタラ地区の
23村と近県の3村

対象 1万2,500人

背景

2009年9月30日、スマトラ島西部パダンの沖合を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、さらに10月1日にも同島南部を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生しました。807人が死亡、26万4,457戸の家屋と1,386の教室が損壊するという甚大な被害をもたらしました。

主な活動

- 防水シート、マット、衛生キットなどの救援物資の支給
- 子どもにやさしいスペース(21ヵ所)設置
- 仮設学校(10校)、トイレと手洗い場の設置
- 学用品の支給(2,500セット)
- 緊急時における教育や子どもの保護に関する教師トレーニング(40人)



防水マットと毛布を受け取る被災者



スマトラ沖地震・津波(2004年)、ジャワ中部地震(2006年)の支援活動から学んだことを最大限に活かして活動を進めました。初期は被災者のニーズに応える活動、続いて教育支援、その後子どもの保護や防災活動に力を注ぎました。また、孤児や障がいのある子どもたちに配慮した支援活動を進めました。



仮設学校で学ぶ子どもたち



仮設住居に避難する被災住民



子ども向けに作成された教材で防災について学ぶ子どもたち

子どもたちって素晴らしい!

子どもたちが災害から受けた心の傷は大きく、その回復には時間がかかります。「彼らの心はからっぽで頭は止まってしまったまま。彼らは白昼夢を見ているようで、授業に集中できません」。こう語るのは仮設学校で2年生を担当するエルファミラ先生です。エルファミラ先生は、プランが再建する学校では、子どもたちが壁画を描き、それによって心の傷を癒しながら彼らが安心して過ごせる場を作っていることを知り、彼女のクラスでも応用してみることにしました。絵が上手な6年生のユスフ君に教材としても使える壁画を描いてもらおうというものです。ユスフ君は、光合成についての絵を描き、クラスメイトが色塗りをしました。

エルファミラ先生はこう振り返ります。「この活動をする中で子どもたちがどんどん意欲的になり、授業にも集中してくれたことは嬉しい驚きです。『学校が再建されたら、仮設学校からこれらの絵を持って行って飾ろう!』と子どもたちと楽しみにしています」

ハイチ 大地震

実施地域 中部クロア・デ・ブーケ活動地域、南部ジャク梅ル活動地域

対象 実施地域の被災者

対象人数は本文をご参照ください。

背景

2010年1月12日、マグニチュード7.0の大地震がハイチを襲いました。震源が人口の集中している首都ポルト・プランスに近かったことから甚大な被害へと拡大しました。22万人以上が死亡、30万人以上が負傷、160万人が仮設テント生活を余儀なくされました。また、3,978校の学校そして医療施設の22%が全壊または甚大な被害を受け、被災者総数は300万人以上（内、半数が子ども）に上りました。ハイチは約960万人の人口の半数以上が1日1米ドル（約90円）未満で暮らす貧困層で“西半球の最貧国”とも呼ばれています。長年政情不安が続き、脆弱な政府や行政機能であったことも地震の被害をさらに拡大させました。

主な活動

- 居住環境の整備
- 保健・衛生
- 教育
- 子どもの保護と心のケア
- 家計の安定
- 災害危機管理
- 政策への提言

居住環境の整備

これまで、3万9,518人（6,871世帯）が居住する45ヶ所の避難キャンプを支援。テント（3,416張）と家族キット（1,886セット）を支給、トイレ（176基）を設置しました。今後は、家屋建設、給水設備、共用シャワー、家庭用トイレの設置などを進めています。



テントの支給を受けた家族



保健・衛生

子ども、思春期の若者、母親を中心とした保健・衛生活動を進めています。これまで予防接種（2万5,673人）、移動診療車（112台）による巡回診療（7,307人が受診）、医薬品の支給（1,300万ドル相当）や地域保健員のトレーニング（282人）を実施しました。今後は、保健省や行政機関の能力強化に取り組むとともに、子どもや思春期の若者を対象とした「性と生殖に関する健康」や「HIVとエイズ」に関する意識啓発活動を推進していきます。



避難キャンプで健診を受ける女の子

ラウマを乗り越え、学校へ再び通えるようになるために「学校に戻ろうキャンペーン」を推進しました。今後は、安全で子どもにやさしい小学校の設計・建設に本格的に取り組んでいきます。



仮設のテント学校で学ぶ女の子

子どもの保護と心のケア

子どもを虐待、搾取、暴力から保護するため、家族・コミュニティ・自治体の能力強化をはかっています。また、喪失感を抱えた子ども・家族をケアするための活動を進めています。人身売買を防止するための意識啓発や国境付近での監視活動を実施。また、子どもが安心して過ごせる場である「子どもにやさしいスペース」の設置（30ヵ所、4,500人）、心のケア（子ども4,000人）、玩具キット支給（4,053キット）、「国境なきピエロ」のパフォーマンス（8,500人）、関係



国境なきピエロのパフォーマンス

教育

プランはハイチ教育省の要請により子ども・親・教師の心的支援を中心とした国家計画づくりや、教育再建計画の構築を主導しています。これまで状況調査（480校）、仮設テント学校の設置（小学校160校、乳幼児教室6校）、学校再建準備（144校）、教師トレーニング（教師と学校長計975人）を実施。また、子どもがト

者へのトレーニング(1,235人)を実施しました。今後は、出生登録などの公的文書再発行、子どもや若者による啓発活動、女の子や女性を保護するシステムづくりにも力を入れていきます。

家計の安定

子どものより健やかな成長を保障するために、家庭の経済力向上を支援しています。これまで、地域住民が復興事業に従事し、現金報酬を受け取る“Cash for Work”には1万2,800人(内、女性4,975人)が参加し、家計の向上につながりました。彼らは、瓦礫の除去、清掃、道路修復、学校トイレの建設などの仕事にあたりました。今後はマイクロ・ファイナンス(小規模金融)や若者への職業訓練も実施していきます。

災害危機管理

子ども、地域住民への防災知識の普及と防災対策に取り組み始めました。今後、コミュニティの人々による応急処置や下水処理方法の習得、通報システムの構築なども進めています。

政策への提言

ハイチ政府がNGO、国連機関、世界銀行などと進める復興ニーズ調査に主要メンバーとして参加し、1,000人の子どもの声を反映。NGOネットワークと連携し、子どもや貧困層の課題を政府の復興計画へ含



“Cash for Work”で収入向上をはかる地域住民

めるよう政策提言を行いました。今後もハイチ政府や関係機関への提言活動を進めています。

プランの37年間におよぶハイチでの活動で培った地域住民、関係機関との信頼関係は、活動の大きな支えと推進力です。例えば、救援物資の運び込みや配布に活躍したのはプランの活動地域出身の若者たち。彼らは震災前にユース・グループとして活動してきたメンバーです。また、クロア・デ・ブーケ副市長のマリー・デュメイさんはプランの支援を受けた経験があります。

「プランは、私がコンピュータ・サイエンスを学ぶコースに1年間通えるように、さらに大学で土木技術を学べるように支援してくれました。プランが活動していない地域では、ほとんどの女の子は学校に通わせてもらはず、家事を手伝って過ごさなければならないのに」

プランは災害直後から子どもの最優先ニーズに応える活動を進めてきました。そして復興段階においては、子どもや若者の復興計画づくりへの参加を積極的に支援していきます。

演劇セラピーの効果

- 2010年8月4日、ジャク梅ルとクロア・デ・ブーケから500人の若者が集い、演劇ワークショップが開催されました。ワークショップの目的は、辛い経験を分かち合い、再建に向けて“一人ではできないことも皆でやればできる”というコミュニティの連帯意識を高めること、そしてそのためにいかに自分の感情と向き合い、適切に表現していくかというものです。若者はワークショップを通して癒されるだけでなく、子どもの権利や環境保護など彼らを取り巻くテーマにも関心を広げ、彼らのメッセージを表現しました。あるグループは地域の深刻な問題である「子どもと女性に対する暴力」をテーマに寸劇を発表しました。彼らは奴隸の鎖を比喩にいかに子どもと女性が虐げられているかを表現し、その撲滅を力強く訴えました。彼らはもはやケアされるだけの存在ではなく、社会を変える存在です。若者たちは今後、被災地を巡回し、寸劇を通してより良いハイチの再建についてのメッセージを伝えています。プラン・ハイチの職員ジュリーは言います。「ハイチの再建は家や学校の建て直しだけではありません。心理的、社会的、精神的な面で被災した人々が立ち直ることもあるのです。プランはさまざまな形でハイチ再建に向けた活動を進めています。



子ども・女性の虐待をテーマとした寸劇

ニジェール 食糧危機

実施予定期間: 2010年3月～2011年12月

実施地域 南部ドッソ活動地域の95村、西部ティラベリ活動地域の120村

対象 122万7,212人

背景

ニジェールでは、干ばつにより食糧事情が著しく悪化し、人口の約6割にあたる780万人が飢えに苦しみました。特に栄養不良の子どもの免疫機能は低下し、下痢、肺炎、はしかなどの病気を引き起こしました。また、食糧を求めた移住や、学校を辞めて働きに出るなど、子どもの教育にも悪影響を及ぼしました。

主な活動

- 食糧の支給(モロコシなどの穀類2,507トン)
- 栄養指導
- 倉庫管理や配布に関するトレーニング

食糧支給は、最も必要としている人に支援が届くよう、また人々の間に不公平感を抱かせないよう、慎重に行いました。コミュニティ住民による委員会を立ち上げ、コミュニ

ティリーダーの確認のもと、緊急度の高い順の世帯リストを作成。1世帯100キロの穀類を混乱なく支給することができました。今後、コミュニティや政府機関の能力強化をはかり、繰り返される災害に対応できる体制づくりを強化していきます。



支給された穀物



食糧の支給を確実に管理

* 2011年報告書でも経過をご報告します。

Guatemala

グアテマラ 热帯暴風雨アガサ

実施期間: 2010年6月～2010年8月

実施地域 東部グアラン活動地域、南部エスキントラ活動地域、中部サラマ活動地域、中部ラビナル活動地域、中部ハラバ活動地域

対象 8万3,950人

背景

2010年5月28日、首都グアテマラ市から南に約50キロのバカヤ山が大噴火。そこに追い討ちをかけるように、その翌日には熱帯暴風雨アガサがグアテマラを直撃。本土に過去60年で最大の降雨をもたらし、死者287人、総被災者39万7,962人の被害を出しました。

**主な活動**

- 豆、モロコシ粉、クラッカー、栄養ドリンクなどの食糧と安全な飲料水の支給
- 衛生キット、衣服、毛布、マット、教材、農具などの支給
- 衛生指導 ■ トライマケア

食糧支給を受ける男の子

**プログラム部 山形 文**

「6月下旬、被災状況の把握と復興支援計画のための調査で、イサバル県に赴きました。避難所、小学校、損壊した家屋を視察し、子どもたちや家族と話す中で、この地域の課題は子どもや家族が安心して暮らし、学べる環境づくりだと実感しました。今後、プランは家屋修繕と学校再建を中心に復興支援を続けていきます」



被災した子どもたちから当時の状況を聞く山形職員

* 2011年報告書でも経過をご報告します。

ご質問やご意見などございましたら、下記担当までご連絡ください。

**財団法人 日本フォスター・プラン協会
(プラン・ジャパン)**
お問合せ: 支援者サポート部

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-10F
TEL: 03-5481-6100 FAX: 03-5481-6200
service@plan-japan.org www.plan-japan.org